

編集後記

平成20年度から7対1入院基本料の算定要件として看護必要度が導入され、看護の評価はそれまでの患者数に対するものから、患者の状態に応じた適正な看護資源の評価、配置へと変わってきています。これは高質な医療サービスの提供が求められるようになり、看護サービスの質も問われるようになってきていることを示しています。また医療ニーズの変化や高まりに伴いチーム医療の重要性が叫ばれ、多種医療従事者の役割分担の見直しが始まり、看護師が担うべき役割も検討されてきています。

このようにめまぐるしく変化する状況下において、新人看護師が基礎教育課程で習得した看護技術能力と臨床現場で求められる看護技術能力の乖離、看護師の離職に対する改善が大きな課題となっており、様々な取り組みがなされております。

平成21年度からは、12年ぶりに基礎教育カリキュラムの改正が行われることとなり、臨床実践力の習得を強化したものとなっています。本校においても変化する医療の現場に適應できる人材育成を目指し、新カリキュラムに向けて真剣に検討を重ねているところです。

そのような山積みの課題を抱え慌ただしく業務に追われながらも、今回の紀要には例年より教員からの投稿数が多く、来年度の創刊20年の節目を目前にして勢いづくものになったと大変感謝しております。

投稿内容に関しては、在宅看護領域や生活習慣病関連、看護学生の看護技術の習得に関するものなどであり、看護学生からは就職の意思に関する投稿がありました。これらの投稿は現在の医療、看護の検討課題と関連が深く、投稿された論文が医療、看護の前進に繋がっていったならば編集委員としても大きな喜びです。

尚、今回は国際医療福祉大学大学院教授、湯沢八江先生に計画書の段階からご指導を賜った論文が数本ありました。例年ご指導いただく機会を生かした論文がなく編集委員としては残念な思いがありました。ご指導いただくことによって論文の内容が深まり、紀要の質も高まっていきます。また自分自身の気づきにも繋がる貴重な機会であると思っていますので、今後ご指導を賜る機会を活かしていただければ幸いです。

最後になりましたが、今年度も押し迫った中であるにもかかわらず、湯沢八江先生には丁寧なご助言と査読をしていただきました。心より感謝申し上げます。

(編集委員：大堀昇、山本君子)

東京医科大学看護専門学校紀要

第19巻 第1号

発行日 2009年3月15日

発行者 東京医科大学看護専門学校

〒160-8402 東京都新宿区新宿6-1-1

電話 03-3351-6141 内線 308, 310

編集者 東京医科大学看護専門学校紀要編集委員会

山本君子、大堀 昇、吉田久美子

印刷者 株式会社研恒社

©2007 東京医科大学看護専門学校